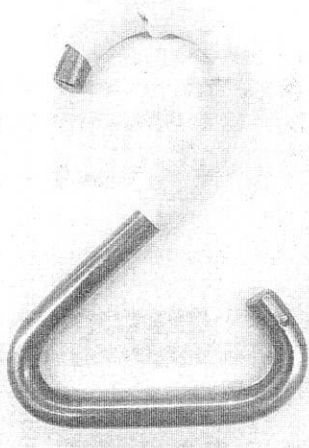


白銅と非接触ツール開発

アルミ青銅で超抗菌

大和合金

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社＝東京都板橋区、萩野源次郎社長)は白銅、カイセ工業と協力し、超抗菌タッチレスツール「ここにグリップ(仮)」写真を開発した。



材料にアルミ青銅を使い、強度と抗菌性を両立。新型コロナウイルス感染症拡大を背景とした非接触ニーズを取り込む。白銅ネットサービスマシンやアマゾンで8月中にインターネット販売を開始する予定だ。開発したタッチレス

材料のアルミ青銅は製品の超抗菌性能を証す日本銅センターの「CUSTAR」認証を7月初旬に取得。ベリウム銅やクロム銅に比べて黒ずみが発生しにくく、食器用洗剤で手入れもできる。

商品開発のきっかけは大和合金の役員が「コロナ禍で何かできることはないか」と考えたことだった。そこでタッチレスツールを提案し、萩野社長が白銅の角田浩司社長に相談。すぐに賛同を得られ、開発を始めた。萩野社長は一開発からわずか2カ月で発売のめ

き、レバー式のドアノブであれば扉も開けられる。タッチパネル式のエレベーターボタンや券売機の操作もできる。他にも、カバンを机や台などに引っ掛けられるS字フックとしての活用も視野に入れる。

だが立ち、非常に良かった。安全と安心を提供することで新型コロナウイルス対策に貢献したい」と話す。